

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300442		
法人名	有限会社 碧		
事業所名	グループホーム むつみ		
所在地	川上郡標茶町旭2丁目4番19号		
自己評価作成日	平成26年1月13日	評価結果市町村受理日	平成26年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0174300442-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年1月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2年間つづけている、体操により運動機能低下予防にやくにたっている。計算読み方の練習により、掛け算などすらすら出来るようになった。また、手洗いの徹底、掃除の時の喚起などで、開設以来、一度も感染症を出していない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<町内資源の活用と地域との交流>
地域の中で暮らせるように、管理者及び職員は地域との連携の大切さを十分に理解し、町職員のOBが運営する地域食堂に訪問して友人や知人の方々との交流を図り、事業所主催の花見では、地元の高校にボランティアを呼びかけ、家族や地域住民、地域の小学生が参加して交流を深めています。また、地域の子供会主催の七夕まつりに招待され、地域の子供たちとの交流を図っています。

<楽しみごとや日中活動への取り組み>
利用者が生活する上で無為の時間を作らないように、午前、午後アクティビティーの時間を設け、職員が体操や下肢の運動、九九の唱和、ゲーム等を行い、利用者が楽しむことが出来るように取り組んでいます。また、同じ建物内のデイサービスを利用している友人、知人と交流する機会を設け、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人との関係が途切れないよう、支援に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	0 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	0 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	0 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	0 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を意識共有し理念にもとづいた、利用者への支援を心掛けています。 理念は、事業所内の要所に掲示してあります。	地域密着型サービスの意義を踏まえ職員全員で話し合っ作成した理念は、全体会議や日々の申し送りの際に振り返る機会を作り、管理者や職員は共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	立地が商業地区である事もあり近隣との付き合いは、少ないが買い物や散歩の様子を近隣の人達が見て認知症への理解も得られて来ている。花見の時など近隣の方達にも、おたよりなどを出しています。高校のボランティアの生徒にも声を掛けています。	町職員のOBが運営する地域食堂や併設しているデイサービスに訪問して友人や知人と交流を図り、事業所主催の行事や地域の行事で、地元の高校にボランティアを呼びかけ、家族や地域住民、地域の小学生が参加して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的には、取り組んでいない、学生の研修、実習又は地域住民が視察、見学に訪れた際に説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	保険者や地域包括支援センター及び有識者として民生委員にも協力を得て行っている 昨年度は年6回開催でき非常に実りのある内容であった	町職員、地域住民、家族、地域包括支援センター職員等が参加して、年6回行っている。事業所の取り組みや状況、事故報告、再発防止策等を参加者と意見交換しながらサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の介護福祉担当者に対しては利用者へのサービスなどに付いて解らない事などは、電話にて接触も多い。	地域ケア会議や日常業務を通じて情報交換を行い、町の介護福祉担当者及び包括支援センター職員と連携を深めるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、していない。危険回避のために拘束が必要かと思われる場合も拘束しない対処方を見当し実施している。ベッドが基本であるが、転落などの危険性の高い方については、事業所内で相談してから、家族さんに説明し、同意を得て床にお布団を敷いて対処している方もいる	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、管理者及び職員の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修などにも参加して虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用されている方がいるために、制度についての理解などは随時疑問点が生じれば深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居手続きの際に本人及び家族に契約書、重要事項説明書の内容を説明し、理解納得してもらった後に、押印した上で文書より交付している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、日常的に声掛けし、心配事や意見不満を聴き家族に対してもホームに来訪された時や電話などにより意見、要望を聴かせてもらうよう呼びかけている。	訪問時に利用者の近況報告と共に意見を言って貰えるように取り組んでいる。また、家族からの意見や要望は速やかに話し合い、ケアの質の向上や運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見の聴取が出来る環境を整えつつ、毎月のケア会議でも意見や提言を受け入れ、運営に反映するように心掛けている。	管理者は職員が意見や要望を言いやすい雰囲気作りを心掛け、毎月のケア会議、日々の業務の中で職員の意見、提案を聞く機会を設け、運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な範囲で利用者の状態を勘案しながら、勤務の調整に努め、給与水準や労働条件を改善し、業務に対する向上心がもてるようにつとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、年1～2回程の研修への参加を目標にし、希望する研修があれば、参加できるように勤務を調整しています。又、資格取得をする人が要れば勤務調整に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にあるグループホームとは時折、お互いの悩みや現状などを話し合い、励まし合いながら職務に従事している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は全職員が意識的に訴えや要望を聴き、不安を少しでも取り除けるように努めており、最新の入居者様は精神状態等が改善され、要介護の区分変更に至った(要介護5→3)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当り本人からの相談は殆どなく、家族からの相談が中心で、グループホームを訪問された時に生活にあり方などを情報公開表で説明し、意見交換して疑問や不安解消を図るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が話し合い、その時のニーズを外部機関とも連携を図りながら解決するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日と一緒に過ごす中で、昔話に生き方を学んだりしています。夏には、職員が畑をして、ちょっとした気分転換や季節を感じて頂き、又、夏期に関してはドライブなどに掛け一緒に風景などを楽しんでおります		
19		職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支えるように心がけている。また、電話連絡ではありますが密にとるように心掛け、ご本人に関しての情報などを共有し、最善のケアが行えるように取り組んでいます		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスに通われている知人の方の訪問等歓迎して迎えています。又、親戚等の高齢の方の面会時は職員も一緒にお話しに入らせて頂き、利用者様の昔の生活ぶり等のお話を聞き、今と違った利用者様への理解を深める情報とさせて頂いています。	住み慣れた自宅での外泊の支援や併設しているデイサービスに通う昔ながらの友人、知人との交流、馴染みのスーパーや理美容院の利用で馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の中には会話が通じて支えあえるところもあるが、認知症の重度化や耳が遠い方に伴い会話が成立しないため、話の断続性が失われるのが実態ではありますが、職員が仲介役となり楽しめる雰囲気作りを行えるよう取り組んでいます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去により入居契約が解除になるが、必要に応じて在宅や他施設で生活する場合、断続して連携をとり情報の提供を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切に、希望や意向が叶えられるよう努めているが、難しさもあります。しかし、ご本人の入所後の状態や家族さんから得られる情報、又、各職種の職員と検討しながら、ご本人にとって良い方法など考えプランに位置づけを行っております	家族からの情報や生活歴、日常の会話や表情などから思いや意向をアセスメントしている。また、職員全員で情報を共有し、本人本位の支援になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人や家族からの情報に併せ、職員が見た状況を精査し、共有しながら生活支援につとめています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様の状態も日によって異なり、各時間帯勤務の職員が把握に努め、次時間帯勤務の職員へ報告や相談を行いながら支援させて頂いております。又、どの職員も情報が得られるように記録の整備に努めております		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題分析とニーズをカンファレンスで協議し、本人や家族の話聞いて生活に取り入れながら、その成果を評価して次の計画に反映出来るように心がけています。利用者1人ひとりの担当職員が決まっているが、担当職員だけでなく全職員の情報や意見をカンファレンスで出し合い介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族と話し合い、それぞれの意見や思いを反映させるよう取り組んでいる。また、毎月のケアカンファレンスで職員全員で検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別アセスメント用紙による記録と介護経過記録を書いています。個別のアセスメント用紙には短期目標を記載し、職員が目や常時通せる様にし、1日2回の評価を行っております。又、常に職員間では情報共有と検討を行ながら計画の反映に努めております		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応するように努めており、ご本人やご家族を含め相談、検討し、支援させて頂いております		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の高校へボランティアをお願いし交流に努めたり、NPO法人で立ち上げている町内の寄り合い所へ訪問させて頂いて、馴染みのある方のお話、又、町内会の育成部との年間行事とし、お花見会を行い心の活性化に努めています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的に健康管理を行いつつ、提携医療機関で一般定期受診・診察はもとより、健康管理の指導も任せて受けている。協力医療機関の受診を送迎、付き添い等の支援をしている。町外の病院の受診は家族対応となっているが家族が都合付かない時は、職員が連れて行くようにしています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、事業所と町立病院との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	業務日誌、朝、夕の申し送り、日中などの観察をふまえ、必要に応じ、併設の通所介護の看護職員の意見を参考にさせていただいている。又、速やかに受診を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時点で管理者、もしくは、ケアマネから家族に対して説明を行い、医師の説明には同席させて頂いています。入院中は時間の許す限り、毎日面会し状況の把握に努めている。又、退院時には職員2名体制で訪問させて頂き、状態の把握に努め、アセスメントを行い情報が1名の主観的にならないようし、退院後の生活支援に役立てている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、主治医と相談しながら、本人はもとより家族の負担が重くならないように配慮し、医療体制を加味しつつ、終末期の在り方を共通認識出来るように心がけている。	重度化、終末期については利用時に事業所のできることを説明し、本人や家族の希望や意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、早い段階から本人の状態や事業所が支援できる限界を家族に丁寧に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止や救命に関する応急手当の在り方を地域の消防署の協力で、救急講習会を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年防災訓練について地元消防署の協力で、火災・地震時の避難訓練を行い、身に着けるようにしている。消防計画を作成し、消防の指導のもと、通報や初期消火等の訓練を行っている。自動通報装置を設置し緊急時には、消防署、警察、職員等に瞬時に通報出来る体制を整えている。	緊急時に職員全員が速やかに対応できるように、消防署の協力を得ながら年2回、夜間や日中を想定した実技を伴う避難訓練を実施している。また、緊急時マニュアル、定期点検や非常招集訓練も実施している。	今後は、災害時に利用者や家族の安否確認がスムーズに行えるように、家族の災害時の連絡先の名簿を作る事を検討しているので、その実践に期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権を尊重するため、職員は利用者のプライバシーや個人情報の保護を守るため、細心の注意を払うようにしている。	職員はプライバシーの確保の徹底を図り、本人の思いに沿ったケアに努めている。また、個人情報の取り扱いについては十分注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞き出し、自己決定出来るように支援しているが、不十分な部分も多々あると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに沿えるように心がけており、職員の数等により限界がありますが、出来る限り添えるよう職員間で話し合い行っております		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の状態にもよりますが、持参して頂いている品や家族さんからの情報などを元におしゃれまでは行かなくても、清潔が保てるように支援させて頂いております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化しているため職員と一緒に準備、調理することは極端に少なくなっている。一部の方になるが声掛けして食事の準備に参加してもらうこともあります。	利用者の好みや本人のその日の体調や気分を見極めながら、食事の準備や片付けを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分摂取状況をチェックシートで確認し、適量摂取するように努めている。又、日々の状態の中で量的に確保できていない方は職員間で情報交換し摂取できるよう援助させて頂いております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔清掃をしています。中には拒否する方もいますが、時間を置いて声掛けをしながら、行っていただいております		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の意思を尊重して、失禁の少ない方は極力リハビリを使用しないように努め、カンファレンスで協議し、家族さんへの説明などを行い、布パンツへの切り替えなど行っております 排泄パターンに合わせてトイレ誘導を促しています。	極力おむつの使用量を減らすよう取り組んでいる。水分、排泄のチェック表の活用から排泄パターンや習慣を把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分調整や便秘薬の提供で対応している。運動への働きかけもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日3名ずつ入れるようにしている。特に拒否する方もおらず、皆さん喜んで入浴しています。	週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、地元の温泉への日帰り入浴や入浴剤等も取り入れ、入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく眠剤を使用しないで入眠出来るよう支援している。どうしても眠れない時は事務所で一緒にテレビを観たりして落ち着いてから、入眠させるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は全て職員が管理し、食後に自分で飲めるかたには、手渡しし、自分で飲めないかたには、職員が援助しております 又医師とも協議し、症状や状態に合わせた調整を行っております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での楽しみを聴き気分転換できるように支援し張り合いが持てるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外散歩や買い物に出かけよう心がけているが、重度の方は、職員一人ひとり付き添い望ましい外出の支援が出来ないのが現状である。利用者の重度化が進み全員で遠距離の外出をする事は困難となって来ているが、少人数で近場へのドライブや個別の散歩、買い物等の支援をしている。今年度はお店側の御協力も頂き、全員で外食することもできた	利用者の状態に合わせて散歩や買い物、お祭り等の町内行事に参加し、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。また、地域食堂や観光地への外食等も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は全員の分を職員の方で管理しています。重度の方はお金の認識はないように思われる。認識している方には必要な分だけ渡すようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話したいと希望した時には、電話で家族や知り合いの方と話せるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな文字のカレンダーを設置してあります。共用空間は広々としており、日当りは良い。季節感を味わいたくために、リビングなどの装飾も季節に応じ替えています	共用スペースは広くゆったりとしており、壁には季節に合わせた飾り付けや行事参加の写真が掲示され、生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるような空間になっている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓以外にソファを置いて、昼間は、そこで好きな者同士で話したり、物思いにふけったりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は暖房スチームだけ設置されているが、入居時にタンスや物を入れる棚など本人の馴染み、見慣れ、使い慣れた物を持ち込むように依頼している。家具の配置も本人の意向に沿うように一緒に移動配置しています。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれて、本人が居心地よく過ごせるように家具等を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所(トイレ・居室)の表示は、はっきり、大きく分かりやすく書いて貼ってあります。食卓テーブルには利用者の名前を一部貼ってある所もあります。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	利用者の高齢化が進み、なかなか、外出が出来ない。地域との、交流も少なくなっている。	夏の間は、少しでも、外に出る	利用者の、状況に合わせてプランをたて、外での食事、散歩など、地域との交流を多くしていく	6カ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。